



ほんのりと黄色を帯びた「急須セット」(チタン黄色)は、急須6090円、湯のみ各1260円。彼女の作品は「COCON鳥丸」でお目にかかることができる。器類は3F「shinbi」で、1F「Lien」では香立てを



代表作とも言える白いオブジェ。小さな器が2つ、3つとユニークにがっている。まったく同じカタチのものはない。花を挿してもよし、シュガーを入れてもよし。ただ飾るだけでもよし。東京の展覧会で販売予定



作業用のディスクの引き出しには、さまざまなサイズやカタチのヘラ、トンボなど道具が収納されている。屋根を延ばしてガラスの奥につくられた作業場には、窯とろくろが設置。半分外のこの空間が季節感をリアルにする

京 KYOTIAN I.D.
京のおきばりさん

陶芸家

東 好美

AZUMA YOSHIMI

【プロフィール】1976年京都生まれ、京都在住。2000年、京都教育大学美術学科陶芸専攻卒業。2002年、M.M graphic design (PARIS) デイ スプレーデザイン科修了。2005年、京都府陶工高等技術専門学校陶磁器成形科修了。現在、3校の小学校で図工の授業を担当しながら、自身の作品づくりにも精力的に取り組む

使い手ごとに物語が生まれるような いくつもの表情を持つ作品づくりを

「やっぱり土がいいなあと思っ
て」と、東さんは留学時代を振り
返る。教大で陶芸に触れて、その
面白さに夢中になった。「学生時
代はオブジェばかりつくってま
した」。卒業後、空間デザインの
勉強のため渡仏。そこで授業中に
粘土を触ることがあり、土の感触
匂い、温度の魅力が再確認した。
帰国後、陶芸を続けるなら器づく
りの基礎を学ぶ必要があると思
い、東山にある専門学校へ進む。
オブジェと器の違いは？と聞え
ば、「オブジェだから、器だから
と区別する感覚はないですね」と
さらり。何を入れてほしいという
わけでもなく、こう使してほしい
と願うこともなく。「ある日は器
またある日は飾り。それでいいと
思うんです。分け隔てなく、用
途は使い手の思いのまま。それが、
彼女の作品のベースだ。

幼いころからモノづくりが好
きだった。だが、多くの中学生
がそうであるように、スポーツ
や友人と遊ぶ時間に熱中した。
進路を決めるときになって漠然
と「芸術の勉強がしたいなあ」
と選んだ大学で、陶芸に出会っ
た。「陶芸は、季節や天気をその
ままりアルにしてくれるもの」。
半分屋外のような作業場で土と
対峙していると、「わあ、秋にな
ってきたぞとか、乾燥してきた
なあ、って自然の変化に敏感に
なれるんです」。彼女にとって陶
芸とは、自己表現の手段である
と同時に、外界との接触に欠か
せない要因なのかもしれない。
「土を触っているときはもち
ろん楽しいけれど、展示したと
きも楽しくて仕方ない」と、二
月に開催される展覧会について
語る。「いまつくっているオブジ
エ(メイン写真参照)は、ひと
つひとつはとも丁寧につくっ
てるんです。それをひとつにキ
ュッとくっつける。友だちには、
せつかくつくったのに何で潰す
の？なんて聞かれますよ(笑)。
ひとつひとつ、微妙にニユーア
ンが違いながら、ひとつにな
れば一部分になる。それぞれに
個性があつて、それがひとつに
なるって意味では人間社会みた
いかな。今回の東京での展覧会
は、香りとのコラボ。「香りを体
感できるような作品を出品する
予定です。作品を触ってもらい
たいんで」と言うだけであつて、
現世美術館に出品するのは庭
に置く。「作品を屋外に置く機
会ってなかなかないし、雨に濡れ
たら色や質感の変化を楽しんで
ほしい。汚れてもいいし。そう
いうのって面白い」。彼女の作
品が、どこか静かなのに存在感
を失わないのは、つくり手自身
の芯のぶれなさと懐の深さのおか
げだと感じられた。

Information

『sens』

- 期間：11月1日(水)～28日(火)
- 時間：11:00～19:00/水休
- 会場：U.S.青山
- 問い合わせ：03-5469-5006
- HP：http://www.azuner.com/

『GENSE ART EXHIBITION』

- 期間：11月17日(金)～23日(木・祝)
- 時間：10:00～18:00(入館～17:30)
- 料金：500円
- 会場：稲原庵(京都市東区南西)
- 問い合わせ：075-353-6788(高世美術館プロジェクト事務局)
- HP：http://www.tooma.info/